

平成30年度 哲学科 AO 入学試験 第1次選考 レポート課題

「聖地」と呼ばれる場所があります。多くの場合宗教上の「特別な場所」を指してこう呼ばれますが、国家などの「特別な場所」もこう呼ばれることがあります。最近では、アニメ作品などの設定上の舞台などがこう呼ばれることもあるようです。また、「聖地」はしばしば人びとがこれを訪れるものであることが多く、そうした行為は「聖地巡礼」とか単に「巡礼」とかと呼ばれます。

「聖地」を訪れる人は、何らかの特別な情緒をもつことが多いようです。恐れおおいとか、ありがたいとか、すがすがしいとか、内容も表現もさまざまですが、まとめて特別な情緒と表現してよいでしょう。

また、「聖地」では人びとが特別な行動をとっているところを目撃することができます。崇拜とか、慰霊とかといった積極的な行動も目撃できますし、逆に言葉を慎むとか、食べ物をとらないとかといった消極的な行動（禁止事項をまもる行動）を目撃することもできます。「聖地」がそういった行動を求めるといってもよいのかもしれませんが。

ところで、こうした情緒と行動とはどちらが先行するのでしょうか。特別な情緒が起こるから、特別な行動をとるのでしょうか。それとも逆に、特別な行動をとる（ように求められている）から、特別な情緒をもつのでしょうか。

もっとも、なぜある場所が「聖地」になるのかも考えた方がよいかもしれません。

それは、特別な情緒を引き起こすような変わった場所だから「聖地」になるのでしょうか、それとも宗教集団とか国家とか、そういった共同体がここは特別な場所だと認定することで「聖地」になるのでしょうか。何らかの共同体がある場所を特別な場所として指定し、その共同体のメンバーがそう認知し、その特別な場所では特別な行動をとるように求められ、そうするようになるから、それで特別な情緒が生まれるということでしょうか。

実際、「聖地」と呼ばれている場所をみると、特に特別な情緒を引き起こすような場所とは思えない、ごく平凡な景観の場所であることも多くあります。

特別な場所を特別にするのは何なのでしょう。共同体の「認知」なのか、特別な「行動」なのか、それとも特別な「情緒」なのか。そして、それらの相互関係はどうなっているのでしょうか。同じように、特別な時間についても、特別な物についても、あるいは特別な人についても議論することができるかもしれません。「聖地」の問題を論じながら「特別さ」の問題についてあなたの考えを1,600字以内で述べなさい。